

やさしく
ゆとり
ある
やさしい
色
でありたい



2026
新年 号

「今日も楽しかった」と
言っていただけに…

2025年トピックス

今年もさまざまな行事を開催して、利用者様・職員共に多くの笑顔が見られました



●初詣（和）

毎年、美濃国分寺に御祈願に行っています。



●仮装行列（関ヶ原）

理事長の花魁にみんな目をパチクリ！



●獅子舞（和合）

今年一年、健康でありますように。



●お花見（関ヶ原）

天気も良く、桜を見ながら、ちょっと一杯。



●鯉のぼり（和）

相川で毎年行われる「鯉のぼり遊泳」です。たくさん鯉のぼりが泳いでいます。



●バイキング（関ヶ原）

皆さん、うなぎを見ると自然と笑顔になりますね。



●節分（和合）

皆さんの無病息災を祈って「鬼は一外！福は一内！」



●流しそうめん（関ヶ原）

夏はやはり流しそうめん、暑さも吹き飛びます。



●神輿行列（関ヶ原）

幸せや繁栄を地元の皆さんへ



●クラウンアキオショー（和合）

秋祭りは毎年、大盛り上がりです。



●いちご狩り（和）

入所者様が作ったイチゴが、とても美味しかったです。



●もちつき大会（関ヶ原）

「よいしょ！よいしょ！」と皆さんの声が響き渡ります。

2026 年

新年のごあいさつ

社会福祉法人 杉和会

特別養護老人ホーム優・悠・邑 和合

理事長 総合施設長

若山 宏

新しい年を迎え、心新たに職員一同で頑張ります。介護事業において「職員不足」と「物価高騰」に明け暮れた一年でしたが、当法人におきましては職員の定着が進み、なおかつ職員のがんばりもあり、特養とショートステイを含めた稼働率が97%を維持できたことは、非常にありがたく感じております。さらに、職員一人ひとりの気付きも充実してきたと思っています。

特別養護老人ホームの入居案件は、基本的な基準として要介護3以上となっており、医療依存度が高い方や、障害・認知面で厳しい方の入居が増えてきました。となりますと、職員一人ひとりの力量と専門性が問われます。そうした中で、国が示す「生産性の向上」に向けた計画も、研修に力を入れながら実践していかねばならないと考えています。

おかげさまで、ロボット・ICTの補助金をいただき、骨伝導によってパソコン入力の手間が減りました。また、眠りスキヤンの導入もあり、見守りが行いやすくなってきたことで業務の省力化が進み、入居者さんとのコミュニケーションの時間が増えました。さらに、

余暇活動への注力が進んだことにより、当法人のコンセプトである「今日一日楽しかったよ」の充実が、これまで以上に図れた一年となりました。

新しい年は「午年」です。馬にちなんで、当法人も大きく飛躍の年にしていきたいと思っておりますので、なお一層のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

社会福祉法人 杉和会

特別養護老人ホーム優・悠・邑

理事 施設長

水野 貴子

あけましておめでとうございます。

今年は午年で丙午の年です。午年は「情熱・行動・挑戦」等がキーワードになるといいます。施設が開所した一年後から勤めさせていただく中で、皆様の理解もあり今日まで来ることができました。理事長の考えを実現（入居者・利用者のより良い生活）のために悪戦苦闘しながらではありましたが、その時々課題について頑張っ取り組み、精一杯職員と共に展開してきました。最初の頃よりはできることが増え、より理想に近づいて来たと思います。その時々での展開で課題はたくさんあります。

今年はスピードと決断を重視しながら熱意をもって積極的に、なおかつよく考えて慌てずに日々を過ごしていきたいと考えています。本年も皆様のご指導を仰ぎつつ入居者に「今日一日楽しかったよ」と言ってもらえる施設を目指していきますので、よろしく願いいたします。

社会福祉法人 杉和会

特別養護老人ホーム優・悠・邑 和

理事 施設長

吉澤 進治

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は地域の皆さまに温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。私たち職員一同は、利用者の皆さまが安心して過ごせる環境づくりに努めるとともに、地域社会の一員として、皆さまとのつながりを大切にしてまいりました。本年も「笑顔」「安心」「信頼」を合言葉に、日々の支援に心を込め、地域に開かれた施設として歩みを進めてまいります。地域の皆さまとの交流や協働を通じて、誰もが住み慣れた場所で自分らしく暮らせる社会の実現に寄与できるよう、

職員一同、力を合わせて取り組んでまいります。新しい一年が、皆さまにとって健康で穏やかな日々となりますよう祈念いたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



特別養護老人ホーム優・悠・邑

副施設長 五次 隆之

新年、明けましておめでとうございます。

旧年中は、優・悠・邑、えりかの里に多大なるご支援とご協力を賜り、誠にありがとうございました。昨年も様々な出来事がありました。私の中では「熊騒動」が特に印象深いものとなっています。そこで「駆除」という言葉が使われたことに、少し残念な気持ちになりました。

「害虫駆除」という言葉には何も感じない一方で、大きな哺乳類であるクマに対して「駆除」という言葉を耳にしたとき、「いのち」の扱いについて改めて考えるきっかけとなりました。

私たちの職場も、日々「いのち」と向き合っている職場です。特に現場の職員は、看取りの瞬間に立ち会うことも多くなります。その中で「いのち」の大切さと、関わっていくことの重みや難しさを、日々実感しているのではないのでしょうか。

職員が働きやすい環境を整えることも大切にしながら、より良い支援に努めてまいります。

また今年は、入居者・利用者お一人ひとりの思いに、これまで以上に丁寧に寄り添い、職員同士が支え合える風土づくりを進めていきたいと考えています。小さな気付きや声を大切に、学び合い、笑顔の時間を増やしてまいります。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

特別養護老人ホーム優・悠・邑

副施設長 吉田 篤

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、当施設の運営および私たちのケアに対し、多大なるご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございました。皆様にはつつがなく新年をお迎えのことと、職員一同、心よりお慶び申し上げます。新しい年を迎え、私たちも新たな気持ちで引き締めさせていただきます。

さて、昨年の介護業界は、様々な変化と課題に直面いたしました。そのような中でも、皆様が安心して穏やかな日々を過ごせるよう、職員一人ひとりが「利用者様本位」のサービスとは何かを常に問い続け、質の向上に努めてまいりました。

本年も、より一層、皆様のお気持ちに深く寄り添いながら、安全かつ快適な生活を送っていただけるよう、全力を尽くしてまいります。変わらぬご愛顧とご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。



特別養護老人ホーム優・悠・邑 和合

副施設長 伊藤 良明

謹んで新年のお慶び申し上げます。

旧年中は格別のご支援とご協力を賜り誠にありがとうございました。

介護分野では 2040 年には 65 歳以上の高齢者数がピークを迎えるとともに、介護と医療の複合ニーズを抱える 85 歳以上の人口が増加する一方で、現役世代の生産年齢人口減少が進む中、介護人材不足が大きな課題となっています。こうした状況下において、働き方改革をさらに推進する重要な一年と考えています。職員一人ひとりが安心して働き続けられる環境づくりに取り組み、業務の見直しや ICT の活用による業務効率化、チームケアの強化、休暇取得の推進などを引き続き進めてまいります。これらのことは、職員の働きやすさだけでなく入居者のみなさまに、より質の高いケアを提供するものと考えております。

本年が皆様にとりまして、健やかで明るい一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

